

# 早期梅雨明けに伴う農作物の管理対策

令和4年7月8日

新潟県農林水産部

観測史上最も早い梅雨明けが発表され、新潟県では中越や上越を中心に、6月から降水量の少ない状況が続いており、向こう1週間程度は続く見込まれています。

このことから、下記の管理対策を参考に水稻や園芸などの農作物の管理に十分留意してください。

## 1 水稻

### (1) 少雨に対応した管理対策

#### ア 事前準備等

- (ア) 用水を有効に活用するため、輪番制など地域での配水計画を立て、地域全体に水が行き渡るようにする。
- (イ) ほ場の見回りを行い、水路や畦畔等からの漏水がないように点検・補修を行う。
- (ウ) 天水田等で利用できる水源が近くにある場合は、ポンプ等を活用してかん水できるように準備する。
- (エ) できる限り降雨を活用するため、水尻・暗渠栓を閉じる。

#### イ 水管理

- (ア) 中干しは遅くても出穂期1か月前に終了し、田面に大きなヒビが入らないようにする。
- (イ) 幼穂形成期から出穂期は、水を最も必要とする時期であることから、飽水管理を徹底し、田面の湿潤状態を保つようにする。
- (ウ) 用水が不足している場合は、湛水せず走り水程度のかん水とし、節水に努める。
- (エ) こまめに水回りを行い、入水したら速やかに水口を止める
- (オ) ひび割れがひどいほ場では、ほ場全体へ水が行き渡るよう、パイプやホースなどを用いて、かん水か所数を増やす。

### (2) 渇水時の栽培管理

ア 土壤乾燥により、生育の停滞・遅延が生じた場合は、生育に合わせた的確な穂肥施用を行う。

イ 土壤の乾燥が続いた後に、用水が確保された場合は、急激に湛水すると根傷みを起こすので、走り水程度のかん水を繰り返す。

### (3) 病虫害対策

ア 土壤の乾燥が長期間続いた後に、急に降雨があった場合は、いもち病が多発することがあるので、適正に防除する。

イ 少雨の年は、カメムシ類等の害虫の異常発生が懸念されるので、発生予察情報に注意し、早期発見・適期防除に努める。

## 2 野菜・花き

- (1) ほ場が乾いている場合は、畦間かん水、またはスプリンクラーかん水を行う。  
但し、畦間かん水を行う場合は、畦間の停滞水が翌朝まで残らないよう、かん水量を調整する。
- (2) 育苗中の苗は、過乾燥にならないようなかん水管理を徹底する。
- (3) 定植直後は、活着の促進を図るため、十分なかん水を行う。  
特に、露地のユリ抑制栽培は、植え付け前後に十分にかん水するとともに、乾燥防止のため遮光する。
- (4) 草勢低下による病虫害被害が懸念されるため、早期発見に努め、適期に防除する。

## 3 果樹

- (1) 園地が乾いている場合は、スプリンクラーかん水又はホースかん水を行う。
- (2) 急激な乾燥を防止するために敷わらやマルチを施用する。
- (3) 草生園では、草刈りを実施し樹冠下に敷草する。清耕園は浅く耕耘して、土壌表面からの蒸散を抑制する。
- (4) 土壌水分の急激な変化は、生理障害（なしの石ナシ・尻腐れ、ぶどうの縮果症、ももの裂果など）の発生を助長するので、定期的なかん水に努める。
- (5) 果実間の水分競合を防ぐため、なしでは適正着果量を守り、早めに摘果する。ただし、ぶどうでは水まわり期前後に日焼け粒や縮果粒の発生した果房を摘房・摘粒すると日焼け等の被害が拡大するため、発生が落ち着くまで実施しない。

## 4 飼料作物

- (1) 2番草の収穫時期を迎える多年生牧草については、貯蔵養分の消耗や夏枯れを軽減するため、刈り取りは10cm程度の高さとし、過度の低刈りや短い間隔での収穫を避ける。
- (2) 多年生牧草の占有率が低下し雑草の侵入が目立つ場合は、草地更新による収量確保に向け秋播種の準備を進める。

## 5 きのこと

露地栽培については、散水などによる湿度管理に努める。